

## 平成 30 年度 財団せせらぎ 助成金使用報告書

所属	東京大学大学院医学系研究科	職名	大学院生	助成金額	200,000 円
氏名	西岡 大輔		印		
研究や活動等のテーマ（申請書に記入した内容を記入すること。）					
生活保護受給世帯の子どもの健康に関連する社会経済的要因に関する研究～子どもの社会的状況に応じた健康支援に向けて～					
助成金の使用実績の概要（日本語で記入すること。図・グラフ等の記載は必須ではない。）					
<p>報告者は、2018年11月に助成金を受託した。助成額を申請書に基づき配分し、1) 自治体のヒアリングのための旅費交通費、2) 関連する主要な学会で発表し、研究成果を広く伝える活動に必要な経費、3) 生活保護に関する知識のアップデートのための書籍費を計上して利用した。</p> <p>1) 自治体ヒアリング交通費：2回にわたり自治体を訪問した。自治体での生活保護受給世帯への支援実施体制や現状を確認し、地域にある社会資源、今後生活保護受給世帯の子どもの支援において実行可能な取り組みなどのヒントを得た。またデータのみでは把握できない、生活保護受給世帯の子どものストーリーに関して情報収集することができた。</p> <p>2) 学会発表に係る費用：本研究費を用いて、日本外来小児科学会（2019年8月：福岡）と日本公衆衛生学会（2019年10月：高知）で発表した。申請書は日本小児科学会を発表先の学会として指定していたが、日本外来小児科学会では「子どもの貧困問題検討会」が組織されており、小児医療現場と子ども支援活動との連携がとられていることがわかったため、発表先を変更した。外来小児科学会での発表では生活保護受給世帯の子どもの健康の実態について医療従事者の立場からアドバイスを頂戴した。その成果として、2019年11月に開催される「第5回貧困と子どもの健康研究会」に招待され、本研究テーマに関する内容を発表する。（URL: <a href="http://www.gairai-shounika.jp/activity/shakai_katsudo/advocacy/kodomo_hinkon.html">http://www.gairai-shounika.jp/activity/shakai_katsudo/advocacy/kodomo_hinkon.html</a>）。日本公衆衛生学会では、現場活動をしている保健師等との情報共有ができた。</p> <p>3) 生活保護や分析手法に関する知識のアップデート：貧困・生活保護に関する書籍、子どもの健康に関する書籍・資料の収集編纂に用いた。</p> <p>なお、上記1)～3)を含む研究活動全体によって得られた知見は以下の通りである（2019年10月 日本公衆衛生学会発表演題抄録より引用抜粋）。現在、さらに分析をアップデートしたものを英語論文としてまとめ、投稿に向けて最終調整中の段階である。投稿時には財団せせらぎより研究助成金を受託した旨を明記する。</p> <p>第78回日本公衆衛生学会 第5分科会（母子保健） 2019年10月23日（水）</p> <p>表題：生活保護受給世帯の子どもの健康と関連する社会背景要因：生活保護受給者の自治体管理データと医療扶助レセプトデータのリンケージデータ分析</p> <p>抄録：【背景】近年、貧困家庭の子どもほど入院経験が多いなど、日本にも子どもの健康格差が存在することが示されている。対策として、厚生労働省は生活保護受給世帯の子どもの健康支援を検討しているが、その根拠となる、生活保護受給世帯の子どもの健康に関する疫学データはほとんどない。本研究の目的は、生活保護受給世帯の子どもの健康状態、および健康状態に関連する社会背景要因を明らかにすることである。【方法】横断研究。対象者は2016年1月に都市近郊2自治体で生活保護を受給している世帯の15歳以下の子どもである。自治体が所有する生活保護受給世帯の管理データと医療扶助レセプトデータを個人リンケージしたものを分析した。ぜんそく、アレルギー性鼻炎、アトピー性皮膚炎、歯の疾患それぞれの疾病の有病割合を算出し、同年の国民生活基礎調査の結果と比較した。また、各疾病の有無を被説明変数、性別・年齢・世帯構成・親の就労・国籍・居住自治体を説明変数としたロジスティック回帰分析を行った。【結果】分析対象者は573人であった。ぜんそく、アレルギー性鼻炎、アトピー性皮膚炎、歯の疾患の有病割合はそれぞれ21.8%、38.9%、5.8%、34.7%であり、国民生活基礎調査の同年齢層における割合（それぞれ2.4%、3.8%、2.6%、3.3%）よりも高かった。回帰分析の結果、ひとり親世帯である場合にぜんそくによる受診が多く（オッズ比1.93、95%信頼区間1.21-3.08）、アレルギー性鼻炎・アトピー性皮膚炎・歯の疾患でも同様な関連があった。外国籍世帯の子どもは、日本国籍の子どもと比べて、歯の疾患による受診が多かった（オッズ比2.34、95%信頼区間1.18-4.64）。【考察】生活保護受給世帯の子どもの各疾病の有病割合は一般世帯に比べて極めて高く、ひとり親世帯や外国籍世帯など、社会的な孤立を引き起こしうる要因が関与している可能性が示された。子どもの健康状態が悪いために生活保護に至るメカニズムも考える。公的扶助を受けていても、健康維持につながっていない可能性があり、公助に加え、地域における子どもの社会関係構築に向けた共助・互助の取り組みの普及も必要である可能性がある。</p>					

助成金の使用金額及び使途

- 日本外来小児科学会学術大会（福岡）：参加費 10,000 円
- 日本外来小児科学会学術大会（福岡）：旅費交通費 59,600 円
- 日本外来小児科学会：入会・学会費 13,000 円
- 日本公衆衛生学会学術大会（高知）：参加費 11,000 円
- 日本公衆衛生学会学術大会（高知）：宿泊費 20,100 円
- 日本公衆衛生学会：入会・学会費 8,000 円
- 書籍：15,000 円
- 自治体ヒアリング交通費・諸経費（2019/02） 31,500 円
- 自治体ヒアリング交通費・諸経費（2019/08） 31,500 円

合計：199,700 円

助成金を使用した成果に関する発表（インターネットに公表されている場合は URL を記載すること。）

日本外来小児科学会 演題発表（口演およびポスター）

日本公衆衛生学会（演題発表およびシンポジウム発表）→雑誌「公衆衛生情報」2020年1月号（予定）に概要執筆中  
（今後は英語論文化の上国際誌に投稿し、日本疫学会・日本小児科学会で発表する予定である）。